

K141.71

2

1

高等小學新定書帖

文部省



高等小學新定畫帖

文部省

第一學年教師



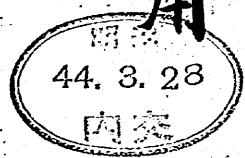


高等小學新定畫帖



第一學年教師用

文部省



凡 例

一。本書は尋常小學新定畫帖に連絡して高等小學校圖畫科の教科書に充つるため編纂したるものにして、各學年とも教師用書と兒童用書との二種となす。兒童用書は更に之を男生用と女生用とに區別したり。

二。本書教師用書は各學年とも一學年間の教授週數を四十週とし毎週教授時間を男生二時間女生一時間として男生の教授時間に相當する分量の教材を選擇し總べて之を説明したり。然れば女生には適宜に之を取捨して教授すべし。兒童用書には教師用書に説明したる材料の中につきて臨畫せしむるもの及び寫生並びに考案畫の參考資料として必要な材料を選出して之を掲げたり。

三。本書は尋常小學新定畫帖と同様に鉛筆畫毛筆畫てふ用具上よりの區別を廢し、鉛筆と毛筆との何れをも使用せしむることとしたり。

四。自在畫の教授を完全にせんには、時時尺度三角定規コンパス等を用ひて正確

用器畫と自在畫との教授時間の割合は凡そ左表の如し。

尋常小學校			高等小學校		
第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	第六學年
ナシ	尺度	尺度 三角定規	尺度 三角定規 コンパス	同上	同上
				同上	同上
				同上	同上
				同上	同上
				同上	同上

合 用 自 在 器 畫 計			種 學 年 別	
			學校別	學年別
一〇〇	一〇〇	九〇	第一學年	尋常小學校
一〇〇	一〇	八五	第二學年	
一〇〇	一五	八五	第三學年	
一〇〇	一五	八五	第四學年	
一〇〇	一五	八五	第五學年	
一〇〇	一五	八五	第六學年	
一〇〇	二五	七五	第一學年	高等小學校
一〇〇	二五	七五	第二學年	
一〇〇	三〇	七〇	第三學年	

合 計	考 案 畫	記 憶 畫	寫 生 畫	臨 畫	種 別		學 校 別
					學 年	別	
一〇〇	五〇	二五	二五	學年	第一	尋常小學校	
一〇〇	四〇	二五	三五	學年	第二	尋常小學校	
一〇〇	二五	三五	四〇	學年	第三	尋常小學校	
一〇〇	二五	四〇	三五	學年	第四	尋常小學校	
一〇〇	二五	五〇	二五	學年	第五	尋常小學校	
一〇〇	三〇	五〇	二〇	學年	第六	尋常小學校	
一〇〇	三〇	六〇	一〇	學年	第一	高等小學校	
一〇〇	三〇	六〇	一〇	學年	第二	高等小學校	
一〇〇	三五	六五		學年	第三	高等小學校	

七、季節と關係する教材は十分注意して之を排列したけれども、地方によりては尙

變更すべき必要あるべければ適切な時期に於て便宜之を教授すべし。
 八。本書は技術の練習に注意したるが故に、植物類昆虫類等の如き種類により、同
 一種類のものを或時期間連續して練習せしむることになしたり。
 九。本書の教師用書にありては、教授上の便を計りて、各課とも要旨準備教授の三
 項目に分ちて記述し、教授の一項は更に觀察説明・問答・畫方注意等の小項目を
 掲げ、觀察説明・問答等の要點並びに畫方の方法を述べ、又描寫の際兒童が陥り
 易き弊並びに將來心得置くべき必要條件等を記したり。各項とも記述事項を
 一括して記したるが故に、教授者は之を分解して便宜の教授案となすべし。
 一〇。本書には畫用紙の廣さを定めず、然れば教授時間の長短用具の大小、圖畫の
 粗密等によりて便宜之を定むべし。
 一一。本書の兒童用書には毛筆若しくは鉛筆のみにて畫きたる畫を掲げられど
 も、便宜木炭其の他の材料を使用せしむるも可なり。

目録

第一學期

第一課	相貫體の工作圖(説明と臨畫)(男生用第一圖).....	一
第二課	指口の工作圖(寫生).....	七
第三課	指口の工作圖(寫生).....	一〇
第四課	指口の工作圖(寫生).....	一一
第五課	薔薇の花(寫生)(男生用第二圖、女生用第一圖).....	一三
第六課	花(寫生).....	一六
第七課	芍藥の花(寫生)(男生用第三圖、女生用第二圖).....	一八
第八課	花(寫生).....	二〇
第九課	花(記憶畫).....	二二
第十課	蝶(寫生)(男生用第四圖、女生用第三圖).....	二三

- 第十一課 昆虫類(寫生)(男生用第五圖)……………二五
- 第十二課 虫類(寫生)……………二八
- 第十三課 虫類(記憶畫)……………二九
- 第十四課 模様の組立(考案畫)(男生用第六圖、女生用第四圖)……………三〇
- 第十五課 繪模様(考案畫)……………三三

第二學期

- 第十六課 秋の景色(臨畫)(男生用第七圖)……………三五
- 第十七課 川口の景色(臨畫)(男生用第八圖、女生用第五圖)……………三八
- 第十八課 野菜類(寫生)(男生用第九圖、女生用第六圖)……………四〇
- 第十九課 果實及び野菜類(寫生)……………四三
- 第二十課 果實及び野菜類(寫生)……………四三
- 第二十一課 果實及び野菜類(寫生)……………四四

- 第二十二課 果實及び野菜類(記憶畫)……………四五
- 第二十三課 魚類(臨畫)(男生用第十圖)……………四六
- 第二十四課 鯉(臨畫)(男生用第十一圖、女生用第七圖)……………四九
- 第二十五課 乾魚類(寫生)……………五一
- 第二十六課 魚類(記憶畫)……………五二
- 第二十七課 器物の形(説明と考案畫)(男生用第十二圖、女生用第八圖)……………五四
- 第二十八課 一輪挿花瓶(考案畫)……………五七
- 第二十九課 切斷面の工作圖(説明と寫生)(男生用第十三圖)……………五八
- 第三十課 茶盆の切斷面工作圖(寫生)……………六四
- 第三十一課 切斷面工作圖(寫生)……………六六

第三學期

- 第三十二課 田舎の景色(臨畫)(男生用第十四圖、女生用第九圖)……………六八

第三十三課	組手の工作圖（説明と寫生）（男生用第十五圖）	七一
第三十四課	三枚蒔組手の工作圖（寫生）	七五
第三十五課	煙草盆の工作圖（寫生）	七七
第三十六課	模様（考案畫）（男生用第十六圖、女生用第十圖）	七八
第三十七課	鳥の各種の姿勢（説明と臨畫）（男生用第十七圖、女生用第十二圖）	七九
第三十八課	鳥の各種の姿勢（記憶畫）	八一
第三十九課	鳥の各部の形（寫生）（男生用第十八圖）	八三
第四十課	鳩（寫生）（男生用第十九圖、女生用第十二圖）	八六

高等小學新定畫帖 第一學年教師用

第一學期

第一課 相貫體の工作圖（男生用第一圖）

説明と臨畫 二時間

要旨

相貫體の工作圖の畫方を授けて、指口の畫方練習をなす。

準備 方柱の相貫體、並蒂の指口。

教授

一。問答

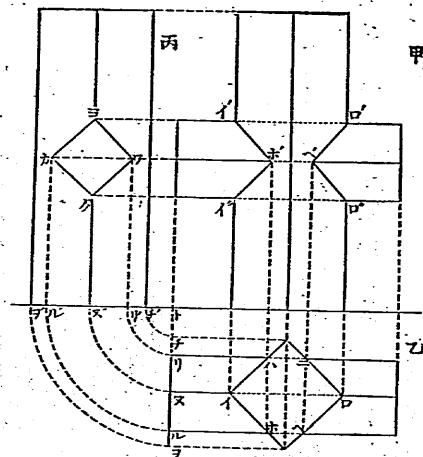
尋常小學校にて授けたる製圖用の實線・點線・破線・鏈線の名稱及び各線の用途につきて問答し、且正面圖・平面圖・側面圖

を書く位置を復習すべし。

二. 説明と畫方

(一) 方柱の相貫體 此の相貫體は直立せる大なる方柱の中

(一)



央を小なる方柱が貫けるものにして、大なる方柱には小なる方柱の刺さるべき方形の孔を有することを知らしむべし。

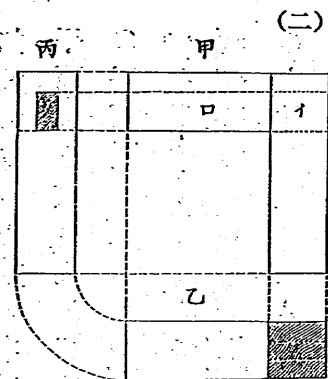
甲圖は正面圖、乙圖は平面圖、丙圖は側面圖なり。

之を書くには、直立せる大なる方柱の平面圖を乙圖の如く正方形に畫き、其の直上に正

面圖を甲圖の如く畫き、次に小なる方柱の正面圖を甲圖の如く大なる方柱の中央に畫き、又乙圖の如く小なる方柱の平面圖を畫き、而して小なる方柱の三つの稜を大なる方柱の平面圖と交らしめ、 ハ ・ ロ ・ ヘ 間を點線にて結合し、而して後 ハ ・ ロ ・ ヘ を過ぐる垂直なる破線を畫き、甲圖の小なる方柱の稜と ホ ・ ヘ にて交らしめ、 イ ・ ロ ・ イ ・ ホ ・ ヘ を結合す。然る時は其の線は大小の方柱の交りたる界を表すものなり。丙圖は ト を中心とし、 チ ・ リ ・ ヌ ・ ル ・ ナ を求め、 チ ・ リ ・ ヌ ・ ル ・ ナ を半径として弧線を畫きて、 チ ・ リ ・ ヌ ・ ル ・ ナ を求め、 チ ・ リ ・ ヌ ・ ル ・ ナ を過ぐる垂直線を引き、甲圖の大なる方柱と同じ高さに切りて大なる方柱の側面圖を作り、次に リ ・ ル を過ぎて垂直なる破線 リ ・ ル ・ カ を畫き、甲圖の ヘ を延長したるものとワ及びカに於て交らしめ、 イ ・ ロ ・ イ ・ ホ ・ ヘ の延長とヨ・タに於て交らしむ。而

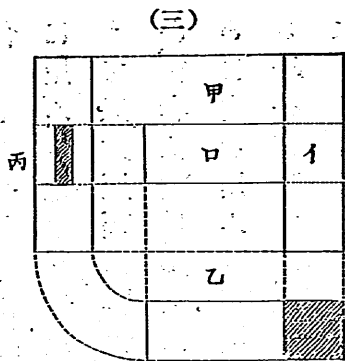
して後ヨ・ワ・タ・カを結合す。然る時は小なる方柱の側面圖を得べし。

(二)並蒂の指口(其の一) 並蒂の指口は蒂及び蒂孔を柱の幅の三分の一に作りたるものなり。之を畫くには、甲圖に示し



たるが如く、先づ直角に交る二つの柱イ・ロを畫き、イ柱に刺さりたる口柱の蒂の幅を點線にてイ柱の面に表す。次に乙圖の如く平面圖を畫き、柱の小口に口柱の蒂の厚さを點線にて記し、更に又丙圖を畫きてイ柱の側面に口柱の蒂の小口を實線にて畫き、口柱は見えざれば之を點線にて畫くべし。

(三)並蒂の指口(其の二) 此の並蒂は一つの柱の中央に他の柱を刺したるものにして、蒂の厚さは前者と同様に柱の幅の三分の一に作りたるものなり。之を畫くには、甲圖に示したるが如く、先づ二つの柱を一つの柱の中央にて直角に交



て記すべし。

らしめたる正面圖を畫き、蒂の幅を點線にて記し、次に乙圖の如く平面圖を畫きて、蒂の厚さを點線にて畫く。側面圖は丙圖の如くイ柱の側面を畫き、其の中央に口柱の蒂の小口を實線にて記して、蒂の幅と厚さとを表し、口柱の形を表す線を點線に

線描を了りて後、兒童用書に示したる如く、淡岱赭色にて彩色せしむべし。淡岱赭色は材料の木材なることを表示するに用ふる色なり。彩色には、全部を平塗にする場合と、線に沿うて五六厘幅に彩色する場合とあり。前者は多く縮圖に用ひ、後者は實尺圖又は製圖の廣き場合に於て手数を省くために之を用ふるを慣例とす。後者の如く線に沿うて彩色する場合に於ては、一つの線の兩側に彩色するものと、一方に彩色するものとあり。一つの線の一方の面高く、一方の面低き場合には、高き面を表す方に彩色し、(二)(三)圖に於ける指口の接合部を表す線の兩側の如く面の高さ等しき場合には、線の兩側に彩色を施すものとす。

三. 注意

(二)(三)圖に於て、小口には曲線を入れて他の面との區別をなしたり。かく小口を表すために用ふる曲線と切斷面を表すために用ふる平行なる直線とは之を混同せざるやう注意すべし。

教授時間の都合によりて、指口のみを畫かしむるも可なり。

第二課 指口的工作圖

寫生 二時間

要旨

二枚帯の指口を畫かしめて、相貫體の工作圖の畫方練習をなす。

準備 二枚帯の指口。

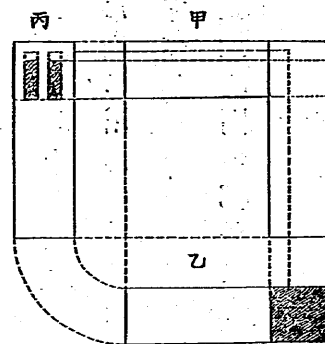
教授

一。説明と畫方

本圖に示したるものは三枚葎と稱するものにして、指口を堅牢にするために葎の數を増したるものなり。葎にある段は指口を成るべく丈夫ならしむるために葎の本の幅を廣くし、先を狭くしたるものなり。

葎の厚さは柱の幅を五等分して其の五分の一の厚さに作りたるものなり。

此の指口を畫くには、甲圖に示したるが如く、二つの柱を直角に交らしめたる正面圖を畫き、雌木に



刺さりたる雄木の葎の部分を點線にて記し、次に第一課の(二)(三)圖を畫きたると同様に、正面圖の直下に平面圖乙を畫き正面圖の左方に側面圖丙を畫きて葎の形狀指口の構造を表すべし。

二。注意

前課に於て授けたる彩色法によりて、木材の全面を淡く彩色せしむべし。

教授時間の都合によりて寸法線をも記し、寸法を記入せしむべし。

本圖は指口の例として示したるものなれば便宜之を變更するも可なり。

第三課 指口の工作圖

寫生 二時間

要旨

止附並蒂の指口を畫かしめて、相貫體の工作圖の畫方練習をなす。

準備 止附並蒂の指口。

教授

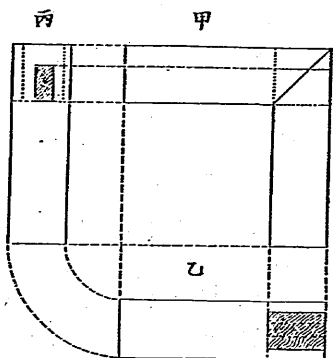
一。説明と畫方

本圖に示したるものは並蒂の指口の表と裏とに止と稱するものを作りたるものにして、衝立の縁の如きものの接合に用ふ。

之を書くには、第一課(二)の並蒂の指口を畫きたると同一の方法により、正面圖甲を畫きて四十五度の止を記し、次に乙丙の順序に平面圖と側面圖とを畫きて寸法線及び寸法を記入すべし。

二。注意

前課に於て授けたる彩色法によりて、線に沿うて木材の彩色を施さしむべし。
便宜他の相貫體に變更するも可なり。



第四課 指口の工作圖

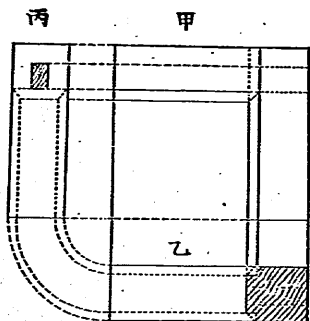
寫生 二時間

要旨

面取並蒂の指口を畫かしめて、相貫體の工作圖の畫方練習をなす。

準備 面取並蒂の指口。

教授



一. 説明と畫方

本圖に示したるものも並蒂の指口にして其の柱の内側の稜に平面を附けたるものなり。硝子戸及び衝立等の縁の接合に用ふ。
之を畫くには、第一課(二)の並蒂を畫

きたる方法にて正面圖甲を畫き、次に平面を表す線を畫き、平面圖側面圖の順序に乙丙を畫き、寸法線及び寸法を記入すべし。

二. 注意

任意に木材の彩色を施さしむべし。

平面圖と側面圖とに現るる點線部は誤り易きものなれば、特に注意せしむべし。

便宜他の相貫體に變更するも可なり。

第五課

薔薇の花

(男生用第二圖)
(女生用第一圖)

寫生 二時間

要旨

薔薇の花によりて種種の方向より見たる花の形狀を觀察せしめ、且其の畫方を授けて、鉛筆にて花を畫く練習をなす。

準備 薔薇の花。

教授

一。説明

兒童用書に示したるものは、満開の花、半開の花、蕾、並びに落花したるものを畫き、且満開の花につきては、前向・後向・左向の三種を示して、其の方向と形狀の變化との關係を示したるものなり。而して満開の花の側に畫きたる大體の輪廓は、各花の著しく突出したる點及び瓣と瓣との界を看取して畫きたるものにして、花の輪廓を定むる最初の方法を示したるものなり。

花を畫くには、かの如く先づ大體の輪廓を定めたる後更に各花瓣の區劃を看取して次第に花瓣・萼の細部分を記し、次に莖を畫くを可とす。本圖は更に花瓣に淡赤色、萼片に淡綠色、莖に岱赭墨の淡きものを施したるものなり。

本圖の如き畫方は鉛筆畫を主とし、彩色は單に實物の色別を示したるに過ぎざるものなれば、鉛筆にて畫くことに十分意を用ひ、彩色は鉛筆畫の妙味を害せざる程度に於て淡彩を施し、決して複雑なる濃淡を施すべからず。以下鉛筆にて畫きたるものに淡彩を施したるは皆此の意味にて彩色したるものなり。

二。觀察と畫方

準備したる薔薇の花を種種の位置に置き、兒童用書中にあ

る圖と對照して、其の花瓣並びに萼片の形狀の變化、各部の色彩、明暗等につきて觀察せしめ、然る後手本を參考して任意に形狀・色彩・陰影を寫生せしむべし。

三。注意

薔薇は便宜他の花に變更するも可なり。

兒童は如何なる方向の花にても、多くは正面圖の如く畫くものなれば、花の方向と形狀の變化との關係、並びに花瓣の卷返りたる部分の畫方につきて特に注意せしむべし。

第六課 花

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて花を畫く練習をなす。

準備 適宜の花

教授

一。問答

花の方向と其の形狀の變化との關係、輪廓の取方並びに花瓣の卷返りたる有様の畫方等につきて問答すべし。

二。觀察と畫方

前課にて觀察したる順序によりて、形狀・色彩・陰影等を觀察せしめ、任意に寫生せしむべし。

三。注意

彩色は前課の參考圖の如く、淡彩を施さしむべし。

第七課 芍藥の花

(男生用第三圖)
(女生用第二圖)

寫生 二時間

要旨

芍藥を畫かしめて、毛筆にて花を畫く練習をなす。

準備 芍藥の花。

教授

一。説明

兒童用書には花と蕾とを示したるものにして、花は殆ど平にして上向になれる所を畫きたるものなり。

此の圖は、第二圖に示したる薔薇の花につきて述べたると同様に、花の著しく突出したる點を看取して輪廓を定め、開

きたる花は先づ適當の菱形を畫きて、花の上面と前側面とを區劃し、之に莖をつけ、蕾は適宜の四角形の輪廓を畫きて之に莖をつけ、次に葉の位置を定め、葉柄と葉との大體を畫き、更に花の各瓣と葉の縁とを訂正し、後淡墨にて花瓣濃墨にて莖及び葉の線描をなし、實物の有する色を標準として、花・葉・莖の順序に彩色したるものなり。莖及び葉の赤味を帯びたる部分は、最初綠色にて彩色し、其の上に適當の赤色を重ねて塗りたるものなり。

二。觀察と畫方

準備したる芍藥の花を示して、花及び葉の方向と其の形狀の變化との關係、色彩・陰影等を觀察せしめ、更に如何なる點を看取して輪廓を定むべきか、如何なる部分を淡墨とし、如

何なる部分を濃墨として書くべきかを考案せしめ、後兒童用書の參考圖につきて説明したる順序によりて任意に寫生せしむべし。

三。注意

白色若しくは淡色の花瓣は淡墨濃色及び暗色のものは濃墨にて線描し、花瓣及び葉の附着せる所の線は強く畫かしむべく、高き部分或は明るき部分を表す線は概して細き線に、低き部分或は陰の部分を表す線は概して太き線に畫かしむべし。

芍薬の代りに他の花を畫かしむるも可なり。

第八課 花

寫生 二時間

要旨

毛筆にて花を畫く練習をなす。

準備 適宜の花

教授

一。問答

墨の濃淡及び太き線、細き線の區別をなすべきことにつきて前課注意の項にて説明したる事項を問答すべし。

二。觀察と畫方

前課に準ず。

三。注意

形狀・色彩をよく畫くことに注意せしむると共に稍筆意を

表すことにも注意せしむべし。

第九課 花

記憶畫 一時間

要旨

種種なる方向より見たる花を記憶によりて畫かしめ、其の形狀の變化につきて確實なる觀念を與ふ。

教授

一。問答と畫方

花の方向と其の形狀の變化との關係、並びに淡墨と濃墨との使用法、細き線と太き線との使用法、輪廓の取方、描寫の順序等につきて問答すべし。

薔薇、芍藥、其の他の花につき、其の形狀・色彩を問答して思想を整頓したる後、任意に畫かしむべし。

二。注意

成るべく各種の方向より見たる形狀を畫かしむべし。

第十課

蝶

(男生用第四圖
女生用第三圖)

寫生 二時間

要旨

蝶を畫かしめ、鉛筆にて虫類を畫く練習をなす。

準備 蝶

教授

一。説明

兒童用書に示したる(一)はあげはのてふ、(二)はうすばしろてふ、(三)はフイリピンてふ、(四)はいぶりしじみにして、何れも平に置きて投影圖法に於ける平面圖に書き、淡彩を施したるものなり。

之を畫くには、何れも左右の前後翅の先端を結合して梯形を畫き、體の位置を定め、左右の前後翅を區劃して次第に各部の形狀を訂正し、後彩色を施したるものなり。淡彩を施すには、單に紋の所のみを塗ることなく、黒き部分をも一樣に彩色したり。即ち(一)は淡黃色にて前後翅の全體を塗り、最後に後翅の一部に淡朱色を施し、(二)は翅の全體を黃色にて塗り、(三)は翅根より翅端に向けて極めて淡き灰色を塗り、更に周圍を淡綠色にて彩色して翅の色を明瞭にし、(四)は翅端に

沿うて白色を残し、全體を淡青色にて彩色したるものなり。
二。觀察と畫方

蝶を觀察せしめて、其の形狀・色彩を知らしめ、更に輪廓の取方・彩色の方法等につきて問答し、後兒童用書の圖を參考して任意に寫生せしむべし。

三。注意

翅の紋は種類によりて定まれるものなれば、注意して正確に看取せしむべし。

第十一課 昆虫類 (男生用第五圖)

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて虫類を書く練習をなす。

準備 適宜の昆虫類。

教授

一。説明

兒童用書に示せる蜻蛉は平に置きたるものを投影圖法の平面圖に畫きたるものにして、螳螂は横に置きたるものを透視圖法によりて畫きたるものなり。故に螳螂の右翅は殆ど全部隠れ、右脚は左脚と其の形異なれり。蟬及び蟬の脱殻は共に畫者の少しく左方にあるものを透視圖法によりて畫きたるものにして、蟬の左翅は右翅と形を異にし、脱殻は左側面全く見えざる場合なり。之を畫くには、蜻蛉は先づ體の中心を通ずる基本線を定め、

次に翅端と翅根とを標準として略四角形を畫き、次に頭より畫き始めて、胴脚及び翅を畫く。螳螂は先づ體の長さを定めて頭と頸と翅とを區劃し、各部の形を作り脚を畫く。蟬は頭と左右の翅端とを結合して長き梯形を畫き、頭部・胸部翅の區劃をなし、各部の形を訂正し、最後に脚を畫く。脱殻は脊・頭・腹・臀の部を通じて適宜の輪廓を畫き、更に各部分の形を訂正し、脚を畫く。

二。觀察と畫方

準備したる標本につきて觀察せしめたる後、任意に畫かすべし。

三。注意

最後に蜻蛉の體と螳螂の全部とに淡綠色を施し、蜻蛉と蟬

との翅には淡灰色、眼には淡青色を施し、而して後蟬の頭部・胸部は淡橙色に少しく青色を混じたるものにて彩色し、脱殻には淡岱赭色を施さしむるを可とす。

第十二課 虫類

寫生 二時間

要旨

毛筆にて虫類を畫く練習をなす。

準備 適宜の虫類

教授

一。問答と畫方

蝶及び蜻蛉の畫方の順序方法につきて問答し、次に標本を

觀察せしめて任意に畫かしむべし。

二。注意

筆意を表すことに注意せしむべし。

第十三課 虫類

記憶畫 一時間

要旨

虫類を記憶によりて畫かしめ、其の形狀につきて確實なる觀念を與ふ。

教授

一。問答と畫方

第十課より第十二課に至る虫類の形狀・色彩畫方等につき

て問答し、思想を整頓したる後、記憶によりて任意に畫かしまべし。

二. 注意

用具は鉛筆と毛筆と何れにても可なり。

第十四課 模様の組立

(男生用第六圖 女生用第四圖)

考案畫 三時間

要旨

不規則なる模様の組立方を授けて、虫類及び植物を應用したる繪模様を考案せしむ。

準備 繪模様ある諸種の器物。

教授

一. 説明

兒童用書に示したる如き模様を繪模様と稱す。之を器物の表面に用ひたる時は應用模様などとも稱す。

繪模様は尋常小學校第五學年第三十二課、第六學年第二十九課及び第三十八課にて説明したるが如く、或面積を成るべく變化ある様に區劃し、其の内に模様の單位を適當に配置して模様を組立てたるものなり。此の繪模様にありては模様の單位を甚だしく便化せず、自然に近き儘を僅に模様化して使用したり。

兒童用書に示したるものは參考圖にして、蝶の模様は漆器の印籠蓋香盒の表面と側面とに之を施し、右上方の隅と其の下方とに示したるが如く、蓋の表面及び側面を適宜に區

劃し、其の内に大小の蝶を排列したるものなり。彩色は洗朱と稱する色漆にて地を塗り、之に蝶を色漆にて書き出したる意匠を表したるものなり。

菊の模様は浅き皿の内面及び外面に之を施し、上方の菊は全部皿の内面にあり、又下方の菊は皿の外面にある。莖と連續して莖の上部と花の部分とが皿の内面に表れたる如く書きたるものなり。即ち左上方の隅と其の下方とに示したる如く皿の内面と外面とを畫きて其の面積を適宜に區劃し、其の内に小菊を適當に組合せて排列したるものなり。彩色は白地に菊を自然の儘の色彩にて書き出したるものなり。

二. 畫方

兒童用書中の參考圖の説明を了りたる後、之を參酌して任意に排列の位置を定めしめ、是まで寫生したる花及び虫類を應用して適宜の繪模様を畫かしむべし。

三. 注意

便宜コンパス及び定規を使用せしむるも可なり。

投影圖法の畫方による時は、香盒の側面を上方に畫き、平面圖を其の直下に畫き表すべきものなれども、參考圖は一般圖案家の畫く習慣法によりて、平面圖を上方に畫き、其の下方に側面を畫きたるなり。依りて兒童の考案したるものも參考圖の如き畫方によらしむるも可なり。

第十五課 繪模様

要旨

繪模様の畫方を練習す。

準備 繪模様ある諸種の器物。

教授

一。問答と畫方

繪模様の組立方につきて問答したる後、扇面内に任意に繪模様を畫かしむべし。

二。注意

繪模様は下圖の時に其の組合方の良否を批正すべし。

考案畫 三時間

第二學期

第十六課 秋の景色

(男生用第七圖)

臨畫 二時間

要旨

秋の景色を畫かしめて、鉛筆にて景色を畫く練習をなす。
教授

一。説明

兒童用書に示したる秋の景色は疎に立ちたる木の間に通じたる田舎道を主眼とし、色彩と稻村の在ることとによりて秋の景色を表し、遠山と人物とにて畫に趣を添へたるものなり。

二。觀察

先づ前景につきては、道の右方小高くして左方次第に低きことを觀察せしめ、次に道の右方の小高き處に稻村あること、前景と遠山との間には低き處ありて、遠山までの距離の遠きこと、並びに遠山は甚だ遠きが故に其の皺見えざること等を觀察せしむべし。次に人物は遠方にあるが故に、其の何方に向へる人物なるかは明瞭ならざれども、樵夫と認めたる儘黒く表したるものなることを知らしむべし。

紙面上に於ける前景の面積、前景の道の左右の面積、道の屈曲、立木の位置、稻村の位置、遠山の位置、面積、形狀、並びに各部分の色彩を觀察せしむべし。

三。畫方

人物の足許を通じて地平線を書き、前景の傾斜と道の方向とを定め、次に道の左方にある大なる一本の木と右方にある二本の大なる木との位置を定め、更に遠山と稻村との輪廓を取り、然る後左方の木より書き始めて、右方の木に移り、地面の高低を書き、最後に稻村、遠山、人物を入れしむべし。彩色は先づ淡青色にて空色と遠山とを彩色し、次に道の左右の枯草を淡橙色、稻村を淡黄色にて塗り、道の左右の木の葉は淡橙色より始めて所所に帶赤橙色を彩色し、尙前景の右方には淡綠色を施し、最後に淡岱赭色にて道の色を彩色せしむべし。

四。注意

本圖は鉛筆畫として仕上げたるものなれば、第五課にて説

明したると同様に、色は單に大體の色別を示すに止め濃色を用ひざるやう注意せしむべし。

第十七課 川口の景色

(男生用第八圖
女生用第五圖)

臨畫 二時間

要旨

川口の景色を畫かしめて、毛筆にて景色を畫く練習をなす。

教授

一。説明

兒童用書に示したる川口の景色は水量多く、流極めて緩なる川口に船を繋ぎたる趣を畫きたるものなり。

二。觀察

本圖は川・船・遠山を横に並べたるが故に、向岸は、舟の帆、遠山は向岸の木、近き川岸は、杙にて之を切り横に並びたる線に變化をつけて美化したる點に留意せしめ、更に川岸・川幅・遠山・空の面積の割合並びに各部の色彩を觀察せしむべし。

三。畫方

用紙の中央より稍下方に地平線を定め、地平線の上方に向の川岸と遠山との輪廓を定め、先づ近くの二艘の船と川岸と杙とを畫き、次に帆掛船を入れ、然る後向の川岸並びに木と帆掛船とを淡墨、近くの二艘の船と川岸とを中墨、杙を濃墨にて線描し、遠山・木、向の川岸、近くの船、水面・杙、川岸に淡墨の隈取を施し、其の上に更に淡青色にて遠山と水面とを塗り、淡綠色にて向の川岸と木とを塗り、淡岱赭色にて船の内

外並びに近くの川岸と杣とを塗らしむべし。

四.注意

淡墨・中墨・濃墨の區別を明瞭にし、且成るべく毛筆にての線の畫方に注意せしむべし。

船の胴を張りたる横木は船梁と稱す。

第十八課

野菜類

(男生用第九圖
女生用第六圖)

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて野菜類を正しく畫く練習をなす。

準備 適宜の野菜類

教授

一.説明

兒童用書に示したるものは鉛筆畫として野菜類の畫方を示したるものにして、其の形狀・陰影は何れも透視圖法によりて畫きたり。本圖を參考として示したる要點は細かなる部分を略して畫く方法を知らしめんとするにありて、光線の直射したる部分の線は細く淡く、陰の部分に現す線は太く濃く畫き、陰影も主要なるもののみを畫きて、其の他は十分之を略したり。

二.觀察と畫方

準備したる野菜類を適當の位置に置き、其の形狀・色彩・陰影につきて觀察せしめ、且筆の使ひ方、略し方等につきて問答したる後、兒童用書中のものを參考して任意に寫生せしむ

べし。

三.注意

陰影の略し方並びに陰陽の線の畫方につきて注意せしむべし。

彩色は鉛筆にて畫きたる筆意を害せざる程度に於て淡彩を施し、品物の色の大様を現さしむべし。南瓜は實を淡橙色、柄を淡黄色にし、玉蜀黍は實を淡黄色、皮を淡橙色にし、酸漿は全部橙色にし、蓮の實は全部淡綠色にし、大根と蕪菁とは莖及び根の頭部を淡綠色にし、柚子は淡黄色と淡綠色とし、豆は淡綠色にし、蕃椒は莖を淡綠色、實を赤の勝ちたる帶赤橙色にし、茄子は莖及び實を青勝ちの帶青紫色の淡色にて彩色せしむるを可とす。

第十九課 果實及び野菜類

寫生 二時間

要旨

鉛筆にて果實及び野菜類を畫く練習をなす。

準備 適宜の果實及び野菜類。

教授

準備したる標本を適當の位置に排置し、其の形狀・色彩・陰影を觀察せしめて後、任意に寫生せしむべし。

第二十課 果實及び野菜類

寫生 二時間

要旨

毛筆にて果實及び野菜類を畫く練習をなす。

準備 適宜の果實及び野菜類。

教授

準備したる標本を適當の位置に排列し、形狀・色彩・陰影を觀察して下圖を畫かしめ、更に輪廓を線描して後、淡彩を施さしむべし。

第二十一課 果實及び野菜類

寫生 二時間

要旨

毛筆にて果實及び野菜類を畫く練習をなす。

準備 適宜の實物。

教授

前課に準ず。

第二十二課 果實及び野菜類

記憶畫 一時間

要旨

果實及び野菜類を記憶にて畫かしめ、其の形狀・色彩の觀念を確實にす。

教授

一。問答と畫方

第十八課より第二十一課まで寫生したる果實及び野菜類

につきて、其の形状・色彩・陰影の畫方につきて問答したる後、任意に記憶によりて畫かしむべし。

二。注意

用具は鉛筆・毛筆の何れにても可なり。

第二十三課 魚類 (男生用第十圖)

臨畫 一時間

要旨

魚類の畫方を授けて、鉛筆にて魚を畫く練習をなす。

教授

一。觀察と説明

手本を觀察せしめ、左上方のものは鯛、鯛の左下方にあるも

のは鰺、鰺の下方は牛尾魚、牛尾魚の右は鯉、鯉の上方にあるものは背と腹とを表したる鰈なることを知らしめ、更に背を畫きたる鰈は平面圖として畫きたれども、其の他は皆透視圖法によりて畫きたることを知らしむべし。本圖に於ては、鰈の腹は白きが故に全部鉛筆の陰影を略し、鰈の背は灰色にして滑なるが故に鉛筆を密に使用して畫き、牛尾魚は表面粗なるが故に鉛筆を粗く使用して畫きたり。鯉と鰺とは背部暗青色にして腹部白く、且其の面滑なれば其の背部は鉛筆を密に使用して濃く畫き、腹部には鉛筆を施さず。鯛は頭部暗赤色にして背部赤く腹部白きが故に頭部には鉛筆を濃く使用したり。

右の觀察をなさしめたる後、鉛筆にて畫く場合には、物體面

の滑なると否とによりて鉛筆の使用上に粗密の區別をなすこと、及び物體の色の濃淡によりても鉛筆の色の濃淡の區別をなすことを知らしむべし。

二。畫方

大體の輪廓を取りて次第に細部分の形を訂正し、淡彩を施さしむべし。

三。注意

實物の色と鉛筆の色の濃淡との關係につきて十分注意せしむべし。

彩色は鉛筆の筆意を害せざる程度に於て淡彩を施さしむべし。鯛は其の背を帶赤橙色の淡きもの、腹部を淡青色鰭と鰓とは其の腹部を白く殘し、全部を淡青色にて彩色し、鰭の

背と牛尾魚とは赤・黄・青の三色を混じたる灰色、鰭の腹は淡青色と淡黄色とにて彩色せしむ可し。

第二十四課

鯉

(男生用第十一圖
女生用第七圖)

臨畫 二時間

要旨

鯉を畫かしめて、毛筆にて魚類を畫く練習をなす。

教授

一。觀察と説明

本圖は水面に近く泳げる鯉と其の活動によりて水面上に生じたる波紋とを畫きたるものなり。鯉は透視圖法によりて活動の状態を畫き出したれば、其の腹鰭と臀鰭との見え

ざること、並びに尾鰭の返れる有様、眼球の位置、鯉の運動の方向と波紋の形との關係等につきて觀察せしめ、更に各部の大小長短の割合、並びに鯉の頭部及び背は其の色を濃くして自然の色を表すと同時に隈取によりて體の圓味を表したること、鱗の畫方には略法を用ひたることに注意せしむべし。

水草は水面下にありて、其の如何なる水草なるか明瞭ならざるままを畫きたるに過ぎざることを知らしむべし。

二、畫方

鯉の方向を定めて任意に輪廓を畫かしめ、先づ體の形を整へ、鰓蓋、胸鰭、脊鰭、尾鰭を畫き、次に口、眼、鱗を畫き、波紋を入れ、而して後中墨にて鯉の體、口、眼、鰓蓋、鰭、鱗及び波紋の線描を

なし、鯉の頭部より腹及び尾部に向つて淡墨の隈取を施し、口、眼、鰭にも隈取をなし、鰭の筋並びに鱗の點體を入れ、眼に黄色を加へ、最後に波紋を淡墨と淡青色とにて隈取し、水草を綠色にて畫かしむべし。

三、注意

隈取は一度に仕上げんとすれば、過失に陥り易きが故に、成るべく數回に適度に塗らしむべし。

第二十五課 乾魚類

寫生 三時間

要旨

乾魚を畫かしめて、鉛筆にて魚類を畫く練習をなす。

準備 乾魚

教授

一。問答

鉛筆にて魚を書きたる注意事項につきて問答すべし。

二。観察と畫方

準備したる乾魚の各部の形狀色彩を観察せしめ、任意に寫生せしむべし。

三。注意

乾魚の表面の粗滑と鉛筆の色の濃淡とにつきて特に注意せしむべし。

第二十六課 魚類

記憶畫 一時間

要旨

魚類を記憶によりて畫かしめ、其の形の觀念を確實にす。

教授

一。問答

前數課にて畫かしめたる魚の形狀、畫方の順序、並びに魚の表面の粗滑・色彩に對する鉛筆使用上の注意等につきて問答すべし。

二。畫方

問答によりて思想を整頓したる後、任意に畫かしむべし。

三。注意

魚の各部の要點を落寫せざるやう注意せしむべし。

第二十七課 器物の形

(男生用第十二圖
女生用第八圖)

説明と考案畫 二時間

要旨

天然物の形を應用したる、器物の圖案法を知らしむ。

準備 天然物の形を應用したる諸種の器物。

教授

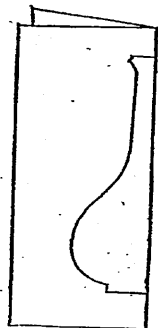
一、觀察と説明

兒童用書に示したるものは、天然物の形を應用して器物の形を考案したる例を示したるものなり。朝顔の花の下に畫きたるものは朝顔の花を水呑と鐵瓶とに應用し、南瓜の下方にあるものは鐵瓶と銅器の如き一輪挿花瓶とに應用し、

蕪菁は陶器及び銅器の如き花瓶に應用し、蓮の葉と蓮の實とは何れも其の左方にある高杯に應用し、瓢箪は其の左方の花瓶に應用したるものなることを知らしむべし。かくの如くして考案するときには、如何なる天然物といへども器物の圖案資料たらざるものなければ、兒童用書に掲げたるものの外、尙選擇し得る天然物許多あることを知らしむべし。天然物の形より考案したる器物は其の天然物の名稱を附して朝顔形の菓子器、南瓜形の鐵瓶等と稱す。蕪菁の下方に畫きたるものの如きは、蕪菁を轉倒して畫きたるものなれば之を逆蕪菁形などとも稱す。

二、畫方

先づ如何なる天然物を採るかにつきて考案せしめたる後、



便宜コンパス・定規類を使用して畫かしめ、或は上圖の如く紙を二折として器物の二分の一の圖を畫き、鋏にて切抜き、之を畫用紙上に載せて其の輪廓を寫し取らしむるも可なり。

輪廓を畫きたる後、無地の着色をなさしめ、或は模様を考案して畫かしむべし。

三. 注意

土瓶類の如きものを考案せしむるときは、注口の高さと同の高さとの關係に注意して畫かしめ、花瓶類の如きは頭、脚等の區劃を明瞭にして、且各部締りあるものに畫かしむべし。

總べて器物は据ゑたる際、安定に据りたる感を起す様に考案することに注意せしむべし。

第二十八課 一輪挿花瓶

考案畫 二時間

要旨

天然物の形を應用したる一輪挿花瓶の形を考案せしめ、且毛筆使用の練習をなす。

教授

一. 問答

天然物の形を應用して器物の形を考案する方法につきて問答すべし。

二. 畫方

先づ天然物の選擇をなさしめたる後、便宜の定規類を使用して任意に畫かしむべし。

三. 注意

兒童の考案せる物が安定の据りをなし、且頭・胴・脚の區別明瞭にして締りたる形なるか否かにつきて批正すべし。

第二十九課 切斷面の工作圖

(男生用第十三圖)

説明と寫生 二時間

要旨

立方體・圓柱・圓筒の切斷面の畫方を授けて、切斷圖法を知らしむ。

準備 立方體・圓柱・圓筒を切斷したる標本。

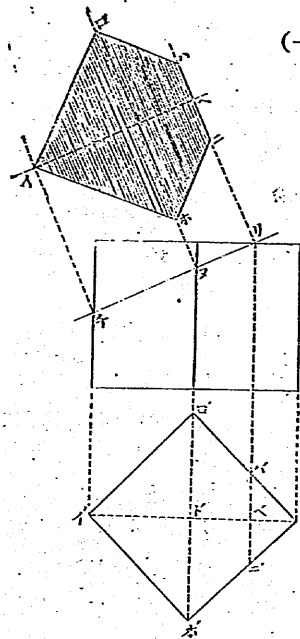
教授

一. 説明と畫方

切斷面の圖は、器物の内部の構造或は其の厚さ等の如く、單に外面のみを畫きたる圖にては不明瞭なる點ある場合に、便宜必要なる部分を切斷して其の切斷面を表し、以て内部の構造或は厚さ等を表示するに用ふるものなり。

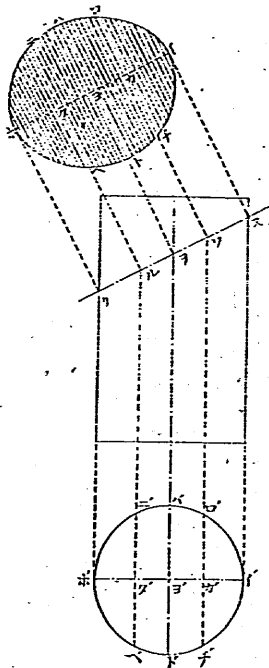
(一) 立方體の切斷面 立方體を(一)圖に於ける鏈線の如き方向に平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の切斷面はイロハニホの如く五角形をなし、イはチに等しく、ロはホに等しく、ハはニに等しきことを知らしむべし、之を畫くには、先づ立方體の正面圖と平面圖とを畫き、正面

圖に切斷せんとする部分に連鎖線を入れ、次に平行にハを
 畫き、次に連鎖線と立
 方體の稜と交りた
 るチ・ヌ・リ・の三點よ
 り、次に垂直にハ・ヌ・
 リを畫き、ハとイ・ト
 へにて交らしめ、而
 して後トの長さに



等しくト・ホを取り、又ハに等しくハ・ニを取り、イ・ロ・イ・ホ・ニを結
 合する時は求むる切斷面を得べし。而して切斷面には圖の
 如く平行線を入れて他の面と區別す。
 兒童用書に示したる立方體は木材にて作りたることを表

す爲、淡岱赭色にて彩色したり。切斷面は他の面よりも少し
 く濃く彩色して、他の面との別を明かにするを例とす。
 (二) 圓柱の切斷面 圓柱を(二)圖に於ける連鎖線の如き方向に
 平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の
 切斷面はイ・ロ



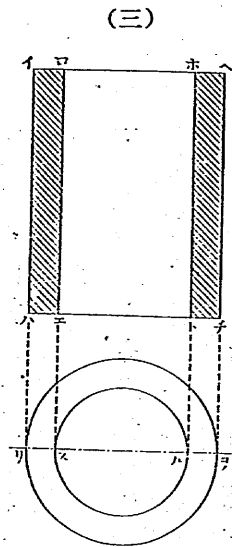
ハニホヘトチ
 の如く楕圓形
 をなし、イ・ホ
 に、ロ・チは
 はハ・ニに、ハ
 に等しきこと

を知らしむべし。

之を畫くには、先づ圓柱の正面圖と平面圖とを畫き、正面圖に切斷線 $\times$ を引き、之と平行に イ を畫き、 $\times$ に垂直に リ 及び $\times$ を過ぐる リ 、 $\times$ を畫き、更に又中心線と鏈線との交點を過ぐる ナ を畫き、尙任意の ル 、 ワ 點を取りて ル 、 ロ を畫き、且中心線に平行に リ 、 ヘ を畫き、 カ 、 ロ に等しく カ 、 ナ を取り、 ハ に等しく ハ 、 ト を取り、 ニ に等しく ニ 、 タ 、 ヘ を取りて イ 、 ロ 、 ハ 、 ニ 、 ホ 、 ト 、 チ 、 イ の間を曲線定規にて結合し、圖の如く平行線を入れて他の面と區別す。

彩色にて鐵材を表示するには淡青色を用ふ、故に兒童用書に示したるものは鐵材にて作りたる圓柱なるを表したるものなり。此の彩色に於て前者と異なる所は輪廓線のみに沿うて施したるにあり。

(三) 圓筒の切斷面 圓筒を(三)圖に於ける鏈線の如き方向に平面を以て切斷したる標本を示して之を觀察せしめ、其の切斷面は イ 、 ロ 、 ニ 、 ハ 、 ホ 、 ヘ 、 ト の如き二つの長方形をなし、其の高さは圓筒の高さに等しく、各長方形の幅は圓筒の厚さに等しきことを知らしむべし。



之を畫くには、先づ圓筒の正面圖と平面圖とを畫き、平面圖に、其の中心を過ぎて切斷線 $\times$ を入れ、 $\times$ 及び ル を過ぎて切斷線に垂直なる ヌ 、 ロ 、 ホ を畫き、正面圖に於て ニ 、 ロ 、 ト 、 ホ に交らしむべし。然る時は イ 、 ロ 、 ニ 、 ハ 、 ホ 、 ヘ 、 ト の長方形を得、即ち求むる圓筒形

の切斷面なり。

彩色にて眞鍮材を表示するには淡黃色を用ふ。故に兒童用書に記したる圓筒は眞鍮なることを示せるものなり。

二.注意

工作圖は正確に畫き、彩色に斑點なき様にすることに注意せしむべし。

彩色を施さざる場合にて、切斷面には平行線を入れて他の面との區別をなし、彩色を施す時は切斷面には他の面よりも濃色を用ふことに注意すべし。

第三十課 茶盆の切斷面工作圖

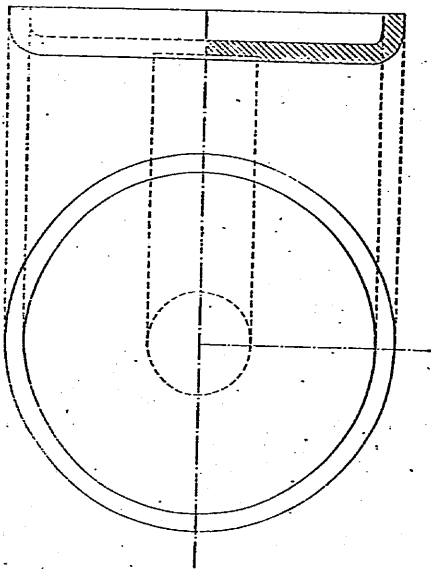
寫生 二時間

要旨

茶盆の工作圖を畫かしめて、切斷面の畫方練習をなす。

準備 茶盆

教授



一.問答

切斷面の畫方の順序、切斷面と他の面とを區別する法、彩色法等につきて問答すべし。

二.觀察と畫方

本圖の如き茶盆を示して之を觀察せしめ、

次に圖の如く切斷して側面並びに底面の厚さを表す切斷面を畫くべきことを命じ、先づ看取圖を畫きて製圖上必要なる寸法を記入せしめ、後正確に製圖せしめ、更に彩色を施さしむべし。

三.注意

前課に同じ。

第三十一課 切斷面工作圖

寫生 二時間

要旨

製圖すべき器物を任意に選擇せしめ、工作圖を畫かしめて切斷面の畫方練習をなす。

教授

一.問答

切斷面の圖法につきて問答すべし。

二.觀察と畫方

製圖せんとする器物を兒童各自に任意に選ばしめ、各部分を觀察せしめて製圖上必要なる看取圖を畫き、寸法を測りて記入せしめ、後正確に製圖せしめ、且彩色を施さしむべし。

三.注意

前課に同じ。

第三學期

第三十二課 田舎の景色

(男生用第十四圖
女生用第九圖)

臨畫 二時間

要旨

田舎の景色を畫かしめて、鉛筆にて景色を畫く練習をなす。

教授

一、觀察と説明

前景として道・茅屋・冬枯の樹木・溝・丸木橋を畫き、遠景として溝の向側の岸に沿ひたる道を界し、中間に田圃を距てて茅屋を畫きたる冬の景色なり。

前景の中央の淡岱赭色は道路を表し、其の左右にある淡黄

色は枯草を表し、屋根の上の淡黄色も屋上に生じたる草の枯れたるものを現したるものなり。道に差出して立てたる國旗の下に柱に結び付けたる淡綠色のものは門松を畫きたるものなり。

前景は人物・屋根裏溝を最も濃く畫きて、壁及び枯草・樹木等を稍淡く畫き、遠景は全體を略同一の墨色に淡く畫きたることを知らしむべし。

此の景色中、一月の意味を表すために國旗を各戸の軒に掲げ、柱に門松を附け、人物の遊び居れる様を配合したるは最も注意したる點なり。殊に遠景中の人物は此の景色に一層の趣を添へたることを知らしむべし。

次に地平線は遠景の人物の腰の邊にあること、並びに畫面

中に於て前景の家の占領せる面積、遠景の家の占むる面積、樹木、道、溝の占むる面積等につきて其の割合を観察せしむべし。

二. 畫方

先づ用紙の下方凡そ三分の一位の處に地平線として横線を書き、前景中の最前方の家の軒屋根・柱の位置を定め、屋根の勾配を附け、而して後、遠景の家の軒屋根・柱の位置を定め、右方の溝並びに道の左右兩脇、枯木の大體の輪廓を取り、細部分を畫き、左上方より次第に右下方に仕上をなさしむべし。彩色を施すには先づ淡青色にて空色を彩色し、僅に岱赭色を加へたる淡青色にて屋根を彩色し、少しく青色を加へたる淡岱赭色にて屋根裏溝、枯木を彩色し、淡橙色にて小屋

の壁及び橋を彩色し、更に國旗には淡赤色、門松には淡綠色を塗らしむべし。

三. 注意

光線の當りたる處と陰影の部との色並びに近景と遠景と色の相違につきて注意せしむべし。

第三十三課 組手の工作圖 (男生用第十五圖)

説明と寫生 二時間

要旨

組手を畫かしめて、一側面の稜を正面の横の稜の延長線に四十五度の角をなさしめたる工作圖法を授く。

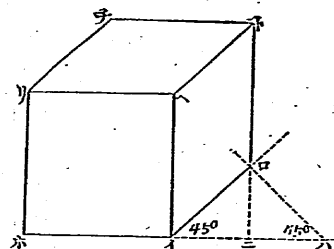
準備 立方體、相缺組手の標本。

教授

一、説明と畫方

此の工作圖法は物體の形狀を表す簡便法なることを知らしむべし。

(一) 立方體 本圖は立方體を畫きたるものなることを知らしめたる後、立方體の標本と手本とを



對照して立方體の各面及び稜の關係につきて觀察せしむべし。

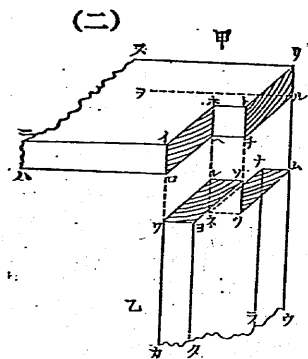
之を畫くには、先づ正面圖を實物の一面と同形同大に、或は縮圖して畫き、次に右側面を畫き、更に上面を畫くものとす。右側面を畫くには、 a を延長し、

側面の奥行の長さ即ち a に等しく b を取り、 c 點を過ぎて b に四十五度の線 bc を畫き、次に a 點を過ぎて b に四十五度の線 bd を引き、 bc 線と bd 線に於て交らしむ。然るときは bc は右側面の奥行を表したるものなり。依りて c を過ぎて b に平行に cd 線を畫き、 b より bd 線に平行に de を畫く。上面を畫くには b より b に平行に bf を畫き、 c より c に平行に cf を畫く。然るときは求むる立方體となる。

右の畫方に於て cd 線を延長するときは bc なる二等邊三角形の底邊 bc の中點 e に於て相會するが故に、此の圖法にて畫きたる圖の側面の b と c との稜の距離は實際の長さ即ち b の二分の一に相當することを知るべし。依りて b なる四十五度の傾斜線を設け、 c 點を定めて cd 線を畫く代りに

ハとロとの平行線の距離を與へられたる側面の實際の稜の二分の一に等しくして、ロ線を畫かしむるも可なり。

(二) 相缺組手 相缺の組手を示し、之を觀察せしめて看取圖を畫かしめ、製圖上必要なる寸法を測定して記入せしめ、後



ト・チをハに平行に畫き、奥行を定めてリを引き、更に又ニに

其の寸法によりて製圖せしむべし。之を製圖するには、甲圖の如く正面圖を畫き、次にハ・ロ線をハ線に四十五度に引き、奥行二分の一の幅を定めてロに平行にハを畫き、ト・チをハに平行に畫き、ホ・ヘの長さを板の厚さに等しく取りてトを畫き、

平行にリ・ルを畫かしむべし。

乙圖は甲圖のロ線を延長してカを畫き、ソの厚さを定め、カに平行にヨを畫き、甲圖の小口に適當する如くヲ・ツ・ネ・ノの面を畫きてナ・ム・ウの線を畫かしむべし。

線描を了りて後木材の彩色をなさしむべし。

二. 注意

側面の奥行の定め方につきて特に注意せしむべし。

第三十四課 三枚葎組手の工作圖

寫生 二時間

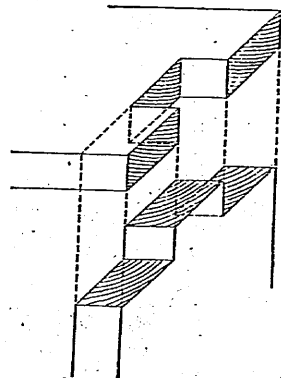
要旨

三枚葎の組手を畫かしめ、側面の稜を正面の横の稜の延長線

に四十五度の角をなさしめたる工作圖の畫方練習をなす。

準備 三枚葍の組手

教授



一。問答

前課にて授けたる製圖法中、側面の稜の畫方につきて問答すべし。

二。觀察と畫方

三枚葍の組手を示し、之を觀察せしめて看取圖を畫かしめ、且製圖上必要なる寸法を記入せしめ、而して後凡そ上圖に示せる程度の製圖をなさしめ、寸法線を入れて寸法を記入し、

木材の彩色をなさしむべし。

三。注意

正確に畫かしむることに注意すべし。

第三十五課 煙草盆の工作圖

寫生 二時間

要旨

煙草盆を畫かしめて、側面の稜が正面の横の稜の延長線と四十五度の角をなせる工作圖の畫方の練習をなす。

準備 煙草盆

教授

煙草盆を示して兒童各自に之を觀察せしめ、看取圖を畫き

て製圖上必要なる寸法を記入し、凡そ上圖の程度に製圖し、寸法線及び寸法を記入して彩色を施さしむべし。

第三十六課 模様

(男生用第十六圖 女生用第十圖)

考案畫 二時間

要旨

模様の單位を與へて任意の模様を考案せしむ。

教授

一。問答

尋常小學校に於て授けたる如き、二方に連續したる帶模様、四方に連續したる續模様、一定の輪廓内に當嵌めたる當嵌模様、並びに本學年第十四課に於て授けたる繪模様等の組

立方につきて復習すべし。

同一色の配合、餘色の配合、類似色の配合等に關し、色の配合の良否、並びに彩色の順序等につきて問答すべし。

二。觀察と畫方

兒童用書に示したるものにつきて、模様の單位を觀察せしめ、其の名稱及び便化の方法等を知らしむべし。

任意の模様を任意の排列法によりて畫かしむべし。

三。注意

本課業に於ては、風呂敷書物の表紙、皿等の品物を限りて任意に考案せしむるも可なり。

第三十七課 鳥の各種の姿勢

(男生用第十七圖 女生用第十一圖)

要旨

説明と臨畫 二時間

鳥類の各種の姿勢につきて特徴を知らしめ、且其の畫方を練習せしむ。

準備 鳥類の標本。

教授

一。觀察と説明

兒童用書に示したるものを觀察せしめ、家鴨・鴨・雁等の丈低き水鳥、鶏の雌雄、小鳥・鳩等の各種の鳥の立ちたる所、木に止りたる所、飛べる所などの姿勢を示したるものなることを知らしめ、次に標本と對照して正面・背面・側面につきて體の形狀の變化並びに姿勢と體の重心との關係を知らしめ、更

に飛べる鳥の翼の恰好、體及び頸の形狀等を觀察せしむべし。

二。畫方

各種の鳥を看取畫の程度に止め、極めて大體の恰好を畫かしむべし。

三。注意

各種の姿勢の大體の恰好は、成るべく記憶畫として畫き得る程度まで練習せしむべし。

第三十八課 鳥の各種の姿勢

記憶畫 一時間

要旨

鳥の各種の姿勢を記憶によりて畫かしむ。

教授

一。問答

各種の鳥の種種の姿勢につきて問答し、其の思想を整頓すべし。

二。畫方

問答によりて思想を整頓したる後、適宜に其の要點を畫かしむべし。

三。注意

兒童が記憶にて畫きたるものと手本とを對照し、兒童自身に批正せしむべし。

第三十九課 鳥の各部の形

(男生用第十八圖)

寫生 三時間

要旨

鳥の各部の形を畫かしめて各種の鳥の特徴を知らしめ、且其の畫方を練習す。

準備 各種の鳥の標本

教授

一。説明

兒童用書に示したる左上方の圖は鸚鵡の頭なり。此の類に屬する鳥は一般に嘴短くして上嘴の先端曲り、眼は嘴に近くして圓く、前頭部著しく突起せり。其の右方の圖は雄鶏の

頭にして嘴は上下の嘴略同じ角度に尖り、目は上下嘴の分れ目の上部に位し形楕圓形なり。其の右方の圖は鴨の頭に於て、其の嘴は扁平にして先端鋭からず、頭は略楕圓形にして眼は上下嘴の分れ目に近く比較的上方にあり。其の右方の圖は小鳥の頭にして其の上下の嘴は略同じ角度に尖りて先端甚だ鋭く、且比較的細長なり。眼は大抵上下嘴の分れ目の上方頭の中央に位して楕圓形をなせり。

第二段に示したる左端のものは摺むことの便なるために前後に二指を有する鸚鵡の脚、次は歩行に適する鶏の脚、次は游泳に適する水鳥の脚なり。又其の次は小鳥の脚にして指細く且長く樹枝を敏速に摺むに便なり。

左下方に示したる頭は鷹鷲等の如き猛鳥類の頭を示した

るものなり。此の類の鳥は嘴大にして殆ど頭の半を占め、上嘴の先端著しく彎曲して鋭く、口廣し、眼は嘴の分れ目の上方に近く位し、眼の上部著しく突出し、奥深き處に眼を輝かし、頭の上は殆ど一直線をなして一見獍猛の相あり。其の右のものは鳥類の左翼と尾とを畫けるものにして何れも羽の排列の有様を示したるものなり。

二. 觀察と畫方

準備したる鳥の各種の標本と兒童用書に示したる圖とを對照し、頭翼脚等を觀察せしめて其の特徴を知らしめ、後各種の鳥の頭翼脚を畫かしむべし。

三. 注意

授教時間に餘裕ある時は、一羽の鳥を種種なる向に變化し

て頭・翼・脚の形狀を寫生し、且彩色せしむべし。
眼の方向は常に嘴と同一方向にあることに注意せしむべし。

第四十課

鳩

(男生用第十九圖
女生用第十二圖)

寫生 四時間

要旨

鳩を畫かしめて、毛筆にて鳥の全形を畫く練習をなす。

準備 鳩の標本。

教授

一. 説明

兒童用書に示したる鳩は稍正面向の所を畫きたるものな

れば、胴の長さ著しく短縮し、頭は頂上のみ表れて卵形をなしたることを知らしめ、且姿勢と脚の位置とを觀察せしめて體の重心との關係を知らしむべし。

二. 觀察と畫方

標本と兒童用書に示したる手本とを對照して、嘴は細く鼻の部分は著しく突起して恰も麥粒を附けたるが如きこと、並びに頭は他の鳥類に比して著しく圓く後頭部高きこと、眼は橢圓形にして周圍に白の斑あり頭の中央より稍嘴に近き處にあること、頸は細くして胸部高く、脚は後方にあること等を觀察せしめ、寫生すべき點と略筆すべき點とを知らしむべし。

次に兒童各自が觀察したるやうに、胴・頭・脚の大體の輪廓を

定め次第に細部分を畫きて、後兒童用書の手本を參考しつ
つ毛筆にて中墨の線描をなし、嘴・頭・翼・尾・脚の順序に淡色よ
り始めて次第に濃色の彩色をなさしむべし。

三、注意

鳩の眼の位置・形狀・方向並びに脚の位置・形狀は兒童の最も
困難とする所なれば特に注意せしむべし。

高等小學新定畫帖第一學年教師用終

K141.71-3-1

211317

明治四十四年二月廿一日印
明治四十四年二月廿三日發
明治四十四年三月卅一日翻刻發行

高等小學新定畫帖第一學年教師用

定價 金八錢五厘

著作權所有

著者兼發行部省

翻刻發行
兼印刷者

大阪書籍株式會社
代表者 三木佐助

印刷所

大阪書籍株式會社

大阪市南區難波原町千八百八十八番地ノ九

發賣所

株式會社
東京市日本橋區新右衛門町十六番地
國定教科書共同販賣所



明治四十四年二月廿五日

文部省檢査濟

(二七五)

